

「延世大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部 2年 (寺田 奈津美)

- ① このプログラムを通しての一番の学習成果は、朝鮮語の会話力の向上である。朝鮮語でしか会話できないという状況に置かれることにより、相手の言葉を聞き、自分が発言するという大学の授業ではできなかったことができた。また、朝鮮語で授業を受けたことが聞く力の向上の大きな要因である。
- 語学堂に通っている人たちは世界各地から来ており、年齢も勉強の目的もさまざまだった。大学に通っているだけでは出会えない人たちに出会えたことは大きな収穫であった。
- 今回の留学で言語が通じるということの重要性を改めて実感することができた。朝鮮語をさらに学びたいという思いが増すと同時に英語を学ばなくてはいけないと感じた。次はもっと長い期間韓国に留学したいという気持ちはあるが、就活や卒業などを考えると難しそうである。もっと早く参加しておけば少し後悔をしている。これからも朝鮮語が上達するよう努力していきたい。
- ② 今回が初めての留学・初めての海外であったため出国審査やフライトにもはしゃいでしまったほど自分にとって何もかも非日常であった。韓国は日本人観光客が多く、街にも日本語があふれていて、その点で困ることはなかった。唯一困ったのがスマートフォンである。現地の空港でSIMカードを買ったはいいものの、設定がうまくいかず結局最後まで寮のwifiとfree wifiでなんとか生活していた。個人的にwifiをレンタルするほうが良いと思う。PM2.5で空気がかなり汚れていたのも少し気になった。
- 私独自でやったことは、大学の卓球トンアリ（サークル）に参加したことである。韓国人の大学生と会話することもでき、大学生生活や卓球事情を聞くことができてよかった。また、留学生もたくさん参加しており、言葉がほとんど通じない私にも親切に対応してくれた。このようなところを自分の部活も見習っていききたいと思った。
- ③ 語学堂では、正規課程のクラスに入れてもらい授業を受けた。初日に行われるレベルテストの結果によって自分に合った級に行けるので語学力にかかわらず楽しく学ぶことができるプログラムであった。授業が十人ほどで行われるため、質問もしやすくとてもよかった。普段の授業のほかに、文化体験や言語交換、延世大学国際学部の学生とのディスカッションなどがあり、朝鮮語以外に学ぶことが多かったと感じている。延世大生とのディスカッションでは、内容というよりも英語がペラペラすぎて自分が恥ずかしくなったことのほうが印象に残ってしまった。今の時代、母語と英語は話せて当然、さらにもう一つ言語を話せるべきなのだと思う。
- ④ 就職しようという意思に変わりはないが、今まで意識しなかった分野に興味が出てきた。どちらかという安定していて、裏方の職業がいいと思っていたが、広告や新聞、たくさんの人とかかわる仕事もいいなと思うようになった。それは今回の留学で人間関係の構築に自信が持てたことが原因である。今まで自分とは人とかかわるのが苦手だと思っていたが、留学期間中に自分から積極的に話しかけ、仲良くなることができた。それで人とかかわることへのコンプレックスが多少薄れ、私には向いていないだろうとあきらめていた職業も視野に入れることができるようになったと思う。苦手だと思っていた一回やってみると案外いけるものもあるのだということを知ることができた。学べたよい経験であったと感じる。